

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成22年3月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	( 評価機関で記入 ) 3 4 7 3 3 0 0 6 7 5
法人名	有限会社畠中商事
事業所名	グループホームあおば
所在地	広島県廿日市市福面二丁目 8 - 6 (電話) 0829 - 56 - 5775
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4 - 46 - 9
訪問調査日	平成22年3月15日

## 【情報提供票より】(22年3月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 15 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	10 人, 非常勤 人, 常勤換算 10

### (2) 建物概要

建物構造	木造スレート2階建 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 ~ 60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円 ) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	300000円	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 3月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	7 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名	
要介護3	1 名	要介護4	名	
要介護5	名	要支援2	名	
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高 89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	廿日市野村病院 村上歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立当初から町内会に入り、近隣の方との交流があり理解されているグループホームあおばは、静かな環境の中で家庭的な雰囲気です。一人ひとりの尊厳と自立支援がされている。理念(ゆっくり、いっしょに、たのしく)を実践されており、入居者と職員に笑顔で穏やかな、ふれあいの姿がありました。最近日、スプリンクラーの設備、外壁の塗装、室内の内装、車椅子対応車の導入等設面の充実にも努められ、入居者の生活安心、安全が一層整備されています。今後地域の協力と、職員の熱意により質の高い地域密着型グループホームになる事を期待します。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念を基に向上心をもって日々実践され、施設長、管理者、職員は理念を共有し、ケアの向上に努められている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価、外部評価の目的を理解し毎年の積み重ねが活かされるよう取り組まれている
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は地域の方、民生委員、廿日市市役所大野支所の職員、ホーム職員の参加で開かれ、グループホームの取組を報告され(ホームで車椅子対応車を購入され地域の老人会、サロンなどに、使用されるような提案)参加者との意見交換があり、その内容を日々ホームの運営に取り組まれている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族は近隣地域の方が多く、ホームを訪れておられる。家族が気軽に要望や意見が言えるよう、職員は面会時に話し合いをする機会ももち、受け止め改善につなげるよう取り組まれている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の一人として自治会に参加し、地域との交流があり集会所の文化祭には入居者の作品展示(貼り絵、手芸)がされ入居者は作品づくりが励みになっている。ボランティア(ハーモニカ演奏、手品、ピアノ演奏)の協力も入居者の楽しみである。地域SOSネットワークに登録されて、地域機関と協力しながら支援をされている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者が安心して住み慣れた地域で、生活ができるよう、一人ひとりの尊厳と自立支援ができるよう職員の思いを込めた理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員ミーティングで理念を確認し、実践に取り組まれている		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として設立当初より交流があり、行事、会議、活動に参加されて地域の方は協力的で理解も深まっている。近隣の方より自宅で収穫された野菜や果物を差し入れされることも度々ある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で再確認したことを、全員が日々の業務に活かせるよう取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の方3人、民生委員1人、大野支所職員1人、ホームの職員の参加があり積極的な意見交換がされる。ホームからは認知症の介護のアドバイスもされている。		運営推進会議が平日に開かれるため、家族の参加が得られない現状ですが日程や通知の方法を工夫され、家族の意見が反映されより幅広い意見が交換されることを期待します。

グループホームあおば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	廿日市市役所、大野支所から連携を保ち、介護保険関係や研修の情報を得て参加するよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は近くの方が多く訪問の際、状況を話し変化があればその都度知らされる。あおば便りや電話、手紙などの連絡がされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には気軽に訪問して、話しやすい雰囲気で見、要望を話してもらえるような信頼関係ができています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが退職者があれば、入居者第一に考え早く馴染めるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修へ参加を勤め、研修の伝達は全員に報告し、生活支援に活かされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われているグループホーム交流会に参加し意見交換や勉強会が行われ、他施設の情報をサービスの質の向上に取り入れることもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>かるた、トランプなどの集団ゲームを行うことでコミュニケーションの場を作り馴染まれるよう工夫がされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者、職員は対等な立場で教わり、手伝ったり、支えあう気持ちで関係が築かれている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話、態度、表情などから希望、意向など把握し、コミュニケーションに努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者、家族との話し合い、職員全員のミーティングで、多くの意見を基に介護計画が暮らしの支援に機能されるように作成される。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員の意見を出し合い、入居者の状況に応じて柔軟な見直しがされている。</p>		

グループホームあおば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設が地域に快く受け入れられ、入居者のデイケアサービスや地域のサロンの参加が容易にされている。最近車椅子対応車が導入され希望の病院への送迎など柔軟な支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望に添えるよう医療機関への支援がされる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、家族との話し合いがあり、家族の考えを確認し、主治医に連絡を取り合い、ホームとして出来る事を職員全員で共有されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケア記録は入居者の家族が読まれても失礼のない丁寧な表現でされている。個人情報には厳重に管理されている。入居者の尊厳を傷つけない言葉使いが丁寧であった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ち、行動、表情を見守り、その人らしい暮らしを支援され、その時、その場で自然体で支えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に一週間分の献立(写真で料理、材料など)を見てもらい、好きな料理、材料を選んで決められている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は決められてはいるが、希望の時間に入ることができる。その日の入居者の希望や状況で支援されている。足欲の希望者には常時対応されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の力を見極め楽しみ事や、気晴らしができるよう支援されている。(花の手入れ、野菜作り、生け花、音楽、ぬり絵、かるた)作品を地区集会所に展示されることもあり双方で喜ばれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節のいい時期、天候を見ながら入居者の体調に合わせて墓参り、イベントなどに出かけ入居者本位の支援をされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者は外に出かけられているが、鍵はかけない見守り支援をされている。玄関口にセンサーが取り付けられセキュリティを保っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動警報装置が完備されている。災害時の避難訓練で避難場所、避難方法を把握し地域の協力が得られるよう連携されている。消火器長椅子についても町内会に登録されて何時でも誰でも使用可能にされている。		

グループホームあおば

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
で					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量の記録は詳細に記録されている。好みの食事、飲み物も提供され、水分量の摂取に気をつけられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間でゲーム、体操、かるたなど楽しいな時間を過ごされている。明るい雰囲気のあるリビングは側面は日常生活必需品の整理整頓が行き届き、必要時にはいつも取り出せる工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使われていた馴染みの物品がもちこまれ、安心して過ごされている。居室のレイアウトや備品も安全に配慮しつつ本人の希望通りにされている。		